

諏訪湖における覆砂場所の湖底形状調査結果について

1. 比較の方法

渋崎沖と日赤沖で実施した覆砂 図1 について、工事直後と今年度及び昨年度と今年度の湖底形状の変化について比較したものである。比較方法は、覆砂工完成図に基づき 3D 地形図を作成し、今回調査による 3D 地形図 完成時→平成 30 年比較図 2、3・図 6、7 と平成 29 年→平成 30 年比較図 4、5・図 8、9 についてそれぞれ比較した。



図1 覆砂位置図

2. 渋崎沖結果【完成時→平成 30 年比較】

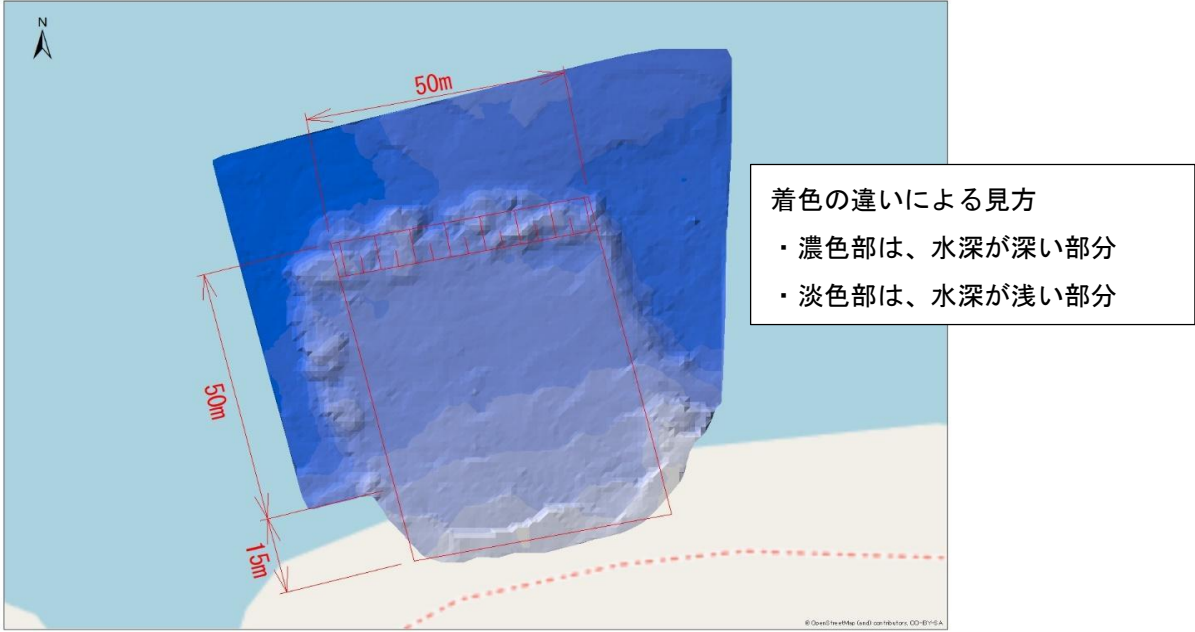


図2 渋崎沖 今回調査 (H30. 12. 25) による 3D 地形図 (実線は完成時 (H27. 6 月時点) の形状)

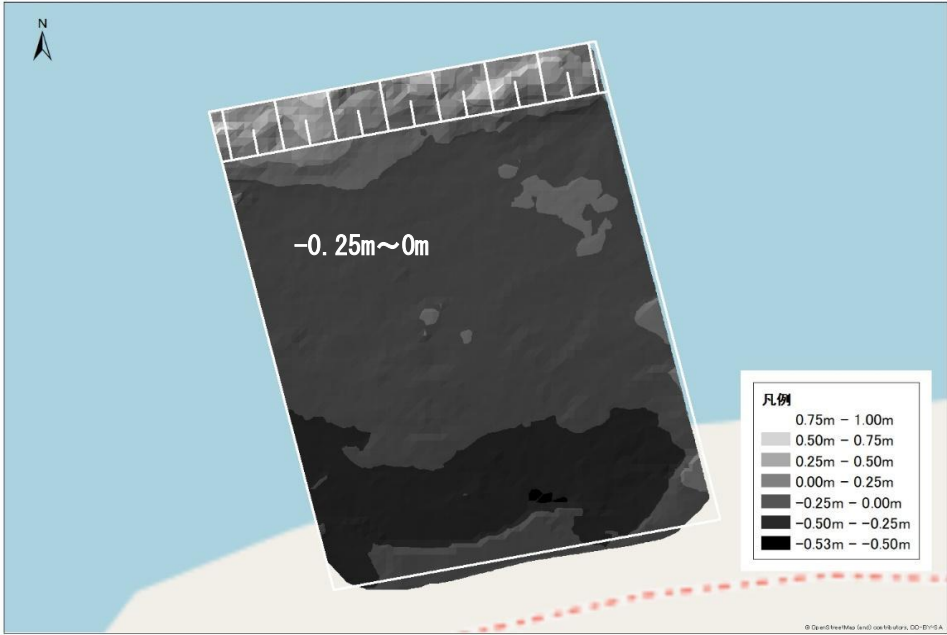


図3 渋崎沖標高差比較図

渋崎沖は、完成時から全体的に-25cm~0cm 程度の洗掘している。この洗掘された砂が沖と側端部に移動している傾向があり、東側即端部では湖底から最大 0.8m 程度の堆砂が確認できた。

渋崎沖【平成 29 年→平成 30 年比較】

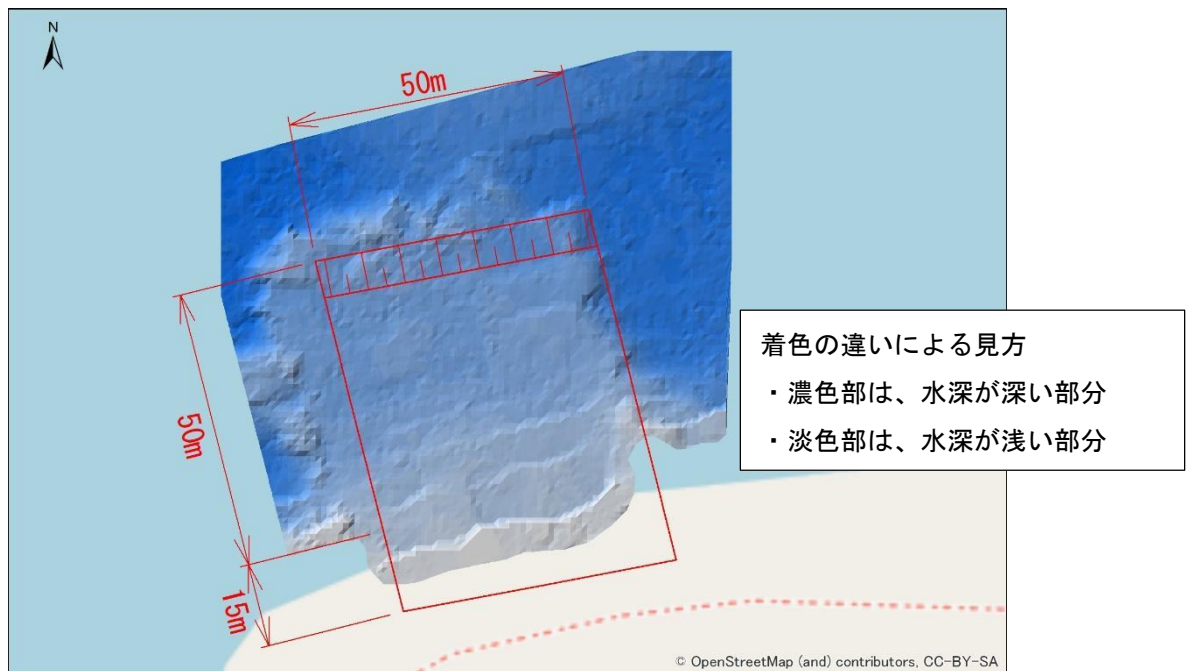


図4 渋崎沖 昨年調査 (H30. 3. 2) による 3D 地形図 (実線は完成時 (H27. 6 月時点) の形状)

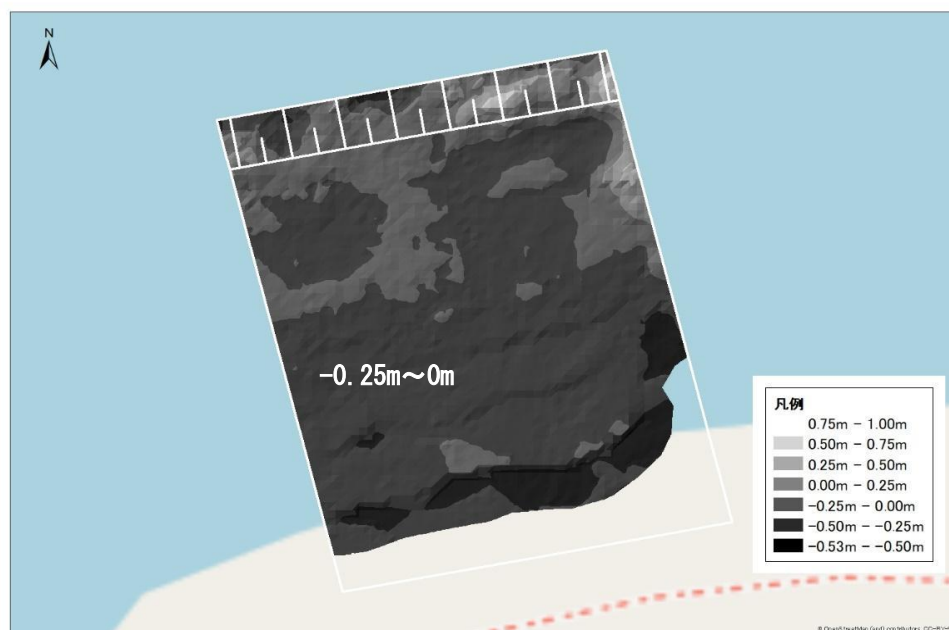


図5 渋崎沖標高差比較図(昨年度調査 H30. 3. 2 と今年度調査 H30. 12. 25 の高低差比較)

渋崎沖の昨年度との計測結果については、3D 地形図上図 2、4 では、全体的に大きな変化は見られないが、若干の洗掘エリアが増えている。

標高差比較図図 5 から水際の浸食が進行している一方で、沖側に概ね 0. 2cm 程度の堆砂が確認された。

3. 日赤沖結果【完成時→平成 30 年比較】

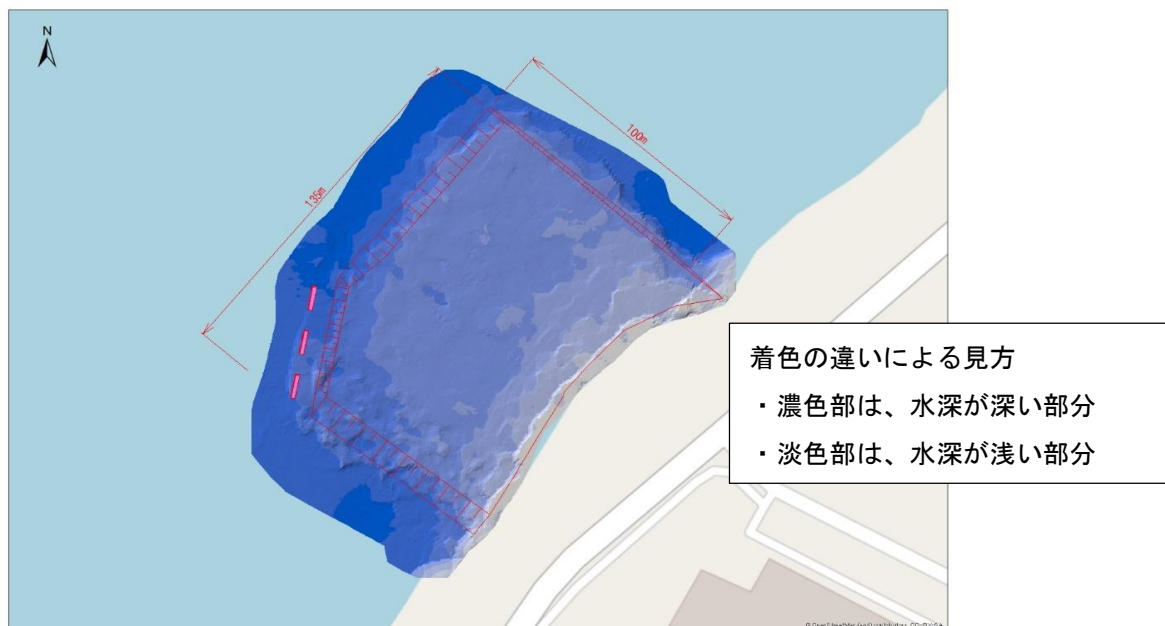


図 6 日赤沖 今回調査 (H30. 12. 25) による 3D 地形図 (実線は完成時 (H29. 4 月時点) の形状)

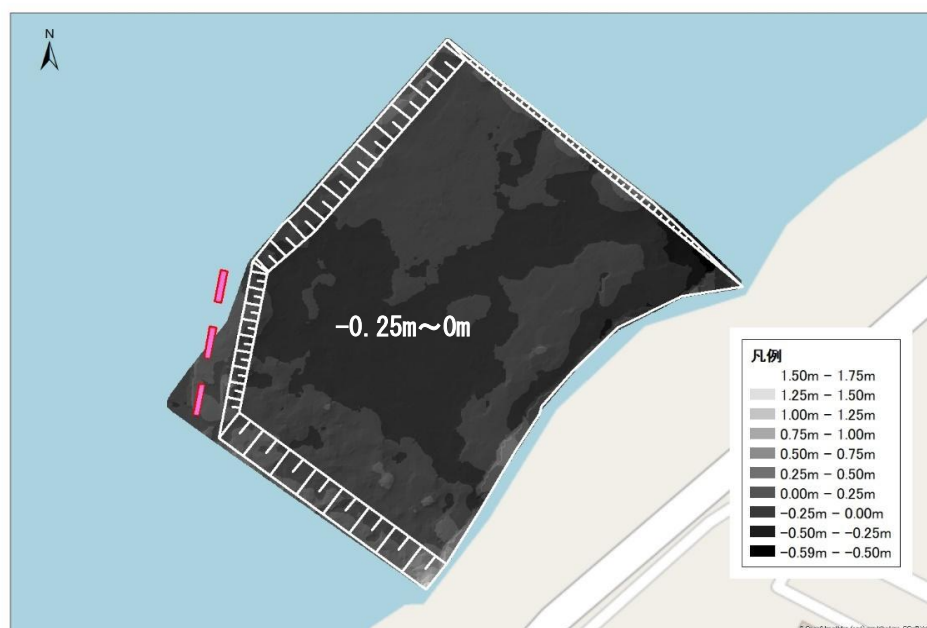


図 7 日赤沖標高差比較図

日赤沖は、完成時から全体的に-10cm~0cmとわずかな洗掘が確認できたが、施工誤差に含まれる範囲である。覆砂工端部は、概ね 30 c m 程度の堆砂が確認されたが、浜崎沖と比較すると堆積量は小さく、洗掘砂による影響なのか経過観察が必要。

日赤沖【平成 29 年→平成 30 年比較】



図 8 日赤沖 今回調査(H30.3.2)による 3D 地形図 (実線は完成時(H29.4月時点)の形状)

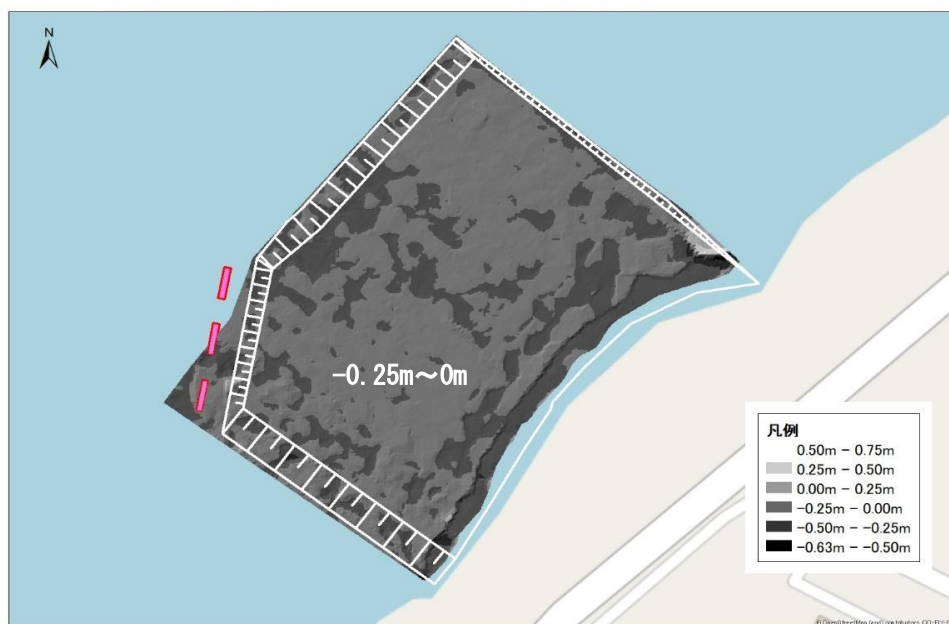


図 9 日赤沖標高差比較図

日赤沖の昨年度との計測結果については、3D 地形図上図 6、8 では、全体的に大きな変化は見られないが、若干の洗掘エリアが増えている

また、標高差比較図図 9 から全体的に 0 cm から -0.1 cm の洗掘が確認された、特に水際の洗掘がやや目立つ状況である。